

学部 / 看護専門領域 / 看護援助の方法

科目コード:140003

成人・老年看護方法論演習 I Practice: Adult and Gerontological Nursing I

担当教員	南條 裕子、紺家 千津子、額 奈々、臺 美佐子、松本 智里、瀧澤 理穂、星野 真実、北村 言、中道 淳子、大橋 史弥、近藤 孝朗、松本 勝、幅 大二郎、長谷川 陽子										
実務経験	複数の教員が担当しており、全員に病院勤務経験がある。										
開講年次	3年次前期	単位数	1			授業形態	講義・演習				
必修・選択	必修	時間数	30								
該当ディプロマ・ポリシー	(1)	(2)	(3)	○	(4)	◎	(5)	(6)			
Keywords	成人期、老年期、周術期看護、日常生活への影響とアセスメント、情報の統合と看護問題の抽出、看護計画立案・実施・評価、看護サマリー										
学習目的・目標	<p>目的 積極的な治療を受ける成人期・老年期における対象者の生命維持・回復に必要な知識を修得する。また、看護問題の解決に必要な思考力(判断能力、応用能力、問題解決能力)を養い、基本的・実践的な援助方法を修得する。</p> <p>目標 1. 手術を受ける患者の事例を通して、周手術期における退院後の生活も見据えたアセスメントを行い、看護問題を抽出できる。 2. 看護計画を立案し、具体的な援助技術・方法を実践し修得できる。 3. 対象者への援助を提供する際に必要となる倫理的判断に対して、看護の立場から自分の考えを整理できる。</p>										
授業計画・内容											
回	内容										担当
1-2	<p>◆ガイダンス…本授業の進め方、評価について 教員紹介</p> <p>◆大腸がんで手術を受ける患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例の復習 ・周手術期患者の全体像の理解 <p>看護展開① 情報収集</p>										南條、紺家、額
3-4	<p>看護展開② アセスメント(情報の統合、関連図)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・術後のフィジカルアセスメント <p>看護展開③ 看護問題の抽出</p>										南條、紺家、額 松本勝、幅
5-6	<p>看護展開④ 看護計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疼痛管理、せん妄予防、リハビリテーション ・栄養管理、退院後の栄養指導 ・排泄の援助 ・退院支援・地域連携 <p>【演習1】術後患者の受け入れ準備</p>										南條、紺家、額 長谷川 ほか
7-8	<p>看護展開⑤ 看護計画の実施</p> <p>【演習2】術後の異常の早期発見に対する看護の実施</p> <p>【演習3】DVT予防に対する看護の実施</p>										南條、紺家、額 ほか
9-10	<p>【実技評価】術後の観察と評価(OSCE)</p> <p>術後早期離床に対する看護計画の立案</p>										南條、紺家、額、 臺、松本智、星野 ほか
11-12	<p>【演習4】術後の援助技術の統合(術後早期離床に対する看護の実施)</p>										南條、紺家、額、 臺、松本智、星野 ほか
13-14	<p>【演習5】周手術期における排泄援助技術:ストーマサイトマーキングおよびストーマ管理</p> <p>意思決定支援 事例検討</p>										紺家、南條、額、星野 ほか
15	<p>事例のまとめ</p> <p>看護展開⑥ 評価、看護(実習)サマリー</p>										南條、紺家、額
教科書	系統看護学講座・別巻 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 医学書院										
参考図書等	<p>疾病・障害論で使用した教科書及びテキスト</p> <p>成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅲ、老年看護学概論、老年看護方法論Ⅱ・Ⅲで使用した教科書及び資料</p> <p>看護学テキストNiCE:成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護(改訂第4版)老年看護学概論、老年看護学技術、南江堂</p> <p>看護学大辞典第6版(電子版)メジカルフレンド社(図書館 e-book利用可)</p>										
評価指標	レポート課題60%、筆記試験40%(授業・グループワークへの参加姿勢、課題レポート、筆記試験等の評価点により、総合的に評価する)。										
関連科目	成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅲ、老年看護学概論、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ、成人・老年看護方法論演習Ⅱ・Ⅲ、成人・老年看護学実習(急性期)、成人・老年看護学実習(慢性期)、解剖生理学/演習、代謝と栄養、疾病・障害論Ⅰ～ⅡC、フィジカルアセスメント、薬理学など										
教員から学生へのメッセージ	対象者は積極的な治療を受けることにストレスを感じ、不安や恐怖を抱くことが推測されます。このような対象者の生命維持・回復して家庭・社会復帰するためには、身体のみならず総合的な視点からのアセスメントと援助が必要です。侵襲とその回復に伴い変化する対象者の身体とニードを理解しながら、積極的に演習に臨みましょう。										